

## 授業改善等に関する報告書（2019年後期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（後期）教職課程] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
介護支援基礎論	柏崎 秀子	どの項目も高めの値となり、一定の成果が得られたと嬉しく思います。特に、説明や配布資料の分かりやすさが高い値となり、担当者としても分かりやすさを意識していたため、成果を感じています。一方で、授業のスピードと双方向性の点が今後の課題であることがわかりました。学生の理解状況をよく見ながら、もっとやりとりをするように心がけたいと思います。自由記述では、いろいろな知識や理解が得られた点が挙がっていたり、障害についての偏見がなくなって接し方を知ることができたとも書かれていて、日ごろ接する機会が少ない障害者や高齢者について学修を深めることができたことがわかり、担当者としても嬉しく、やりがいを感じました。
教育方法・技術論	宮脇 郁	わかりやすい授業を心がけていますが、中程度の評価でしたので、これをもっと高めていきたいです（設問7、9）。また、どちらかという受講生と教員のコミュニケーションより、受講生同士のコミュニケーションを増やすことを心がけていましたが、今後は受講生と教員の双方向性をもっと高めたいと思います（設問8）。この授業の大きな特徴として、模擬授業を行うことが挙げられます。模擬授業の準備は大変だったと思いますが、自由記述の回答によると、かなり勉強になったとのことでした。今後も継続していきたいと思います。自分自身が成長できたかという問い（設問11）の回答はそれほど高くありませんが、教える方の立場からすると、成長の様子が大いに見られたと思います。今後の教職過程での学習につなげていってほしいです。
教職研究 e	山田 佳子	教育全般について主体的に学び、自分自身の考えをもち、表現できることを目標に講義を行いました。教職を目指すために、これからも社会の教育課題に関心をもち、考えを深めていってほしいと思います。
教職実践演習（中・高）	菅沢 茂	参加姿勢や理解度は良好であり、参加者全員が演習資料の作成や発表に積極的にかかわり、授業の目的は十分に達成されたと思います。
教育相談	櫻井 成美	アンケートへのご回答、ありがとうございました。 今年度も、ディスカッションや課題発表に積極的に取り組むなど、熱心に授業に参加する学生さんが多く、それが今回のアンケート結果にも反映されていたと思います。 今年度の授業の中で課題として感じたのは、授業後に書いていただいていたコメントについてです。昨年度の学生さんと同様に、感想は多く書かれていましたが、質問は少ない印象を受けました。授業を聞いてもっと知りたいと思ったこと、疑問に思ったことや質問などを書いていただければ、次週にフィードバックをします。より学びを深めるためにも、ぜひ、どんどん質問をしてください。 皆さんからいただいたアンケートの結果をもとに、次年度も具体的な事例を多く取り入れ、グループワークをするなど、学生—教員間、学生間の双方向的なやり取りの中で考えを深める機会を多く作りたいと考えています。
教職研究 b	山田 佳子	少ない人数でしたが、自分で目的をもちよく学んだと思います。広く教育について考え、自分の考えを述べられるように努力を続けてください。
教育課程論	清田 夏代	学生評価の結果については概ね納得している。この授業は、教職課程科目改革の影響で配当学年等が変わるので、適切に対応していきたい。
国語科教育法（4）	渡邊 重人	2019年度のアンケート結果を参照すると、予習復習時間が十分にとれていないようです。授業時のマイクロティーチングの学習効果を高めるためには、準備と振り返りが重要であり、予習復習は欠かせません。そこで2020年度は、マイクロティーチングに関する説明・指示・教材配布を早めにするのと同時に、振り返りのポイントを具体的に提示することで、予習復習の充実を図ります。 また、第15回に、学習指導案の書き方に関する学習の機会がもう少しあるとよいのではとの申し出がありました。この点については、授業の際に書き方について再確認する機会を増やすとともに、履修者が自主的に作成した学習指導案をチェックするなどの個別対応を増やすようにします。

[2019（後期）教職課程] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
国語科教育法（1）	渡邊 重人	①2019年度のアンケート結果では、「Ⅱ. この授業の内容と方法について 5. シラバスの内容や到達目標と一致していましたか?」が4.18、「Ⅲ. 全体について 14. あなたのこの授業に対する自己採点（成績評価）は何ですか?」が3.64でした。これらのポイントを高めるため、授業の要となる模擬学習指導案の作成過程の見直しを図ります。今年度は、項目別に2回の事前提出・添削を実施しました。これを、2020年度は3回とし、本時の展開も対象とします。 ②2019年度はマイクロティーチングを30分で実施しましたが、2020年度はマイクロティーチングの目的や教材に合わせた時間の延長も考えています。 ③学習効果を上げるため、質問しやすい雰囲気づくりもします。例えば、ワードの使い方などについても不安がある場合は、遠慮せずに質問ができるような授業にしたいと考えています。
介護支援基礎論	柏崎 秀子	翌年の介護等体験に向けた事前学修の位置付けの授業のため、心構えも含め障害者や高齢者に関する基礎学習を行ったが、授業の進むスピードがやや速かったようで、学生の理解状況をよく見ながら進めようになりたいと思いました。自由記述では、日ごろ接する機会が少ない人との接し方について深く考える機会をもてたことと肯定的に捉えていて、この授業の趣旨をよく理解してもらえたようで嬉しいです。また、個々の知識だけでなく、課題や問題を発見する力が身に付いたとの記述もあって、学び方の学びにもなっていたとわかり、心強く感じました。
教育方法・技術論	宮脇 郁	わかりやすい授業を心がけていますが、中程度の評価でしたので、これをもっと高めていきたいです（設問7、9）。また、どちらかというと受講生と教員のコミュニケーションより、受講生同士のコミュニケーションを増やすことを心がけていましたが、今後は受講生と教員の双方向性をもっと高めたいと思います（設問8）。 この授業の大きな特徴として、模擬授業を行うことが挙げられます。模擬授業の準備は大変だったと思いますが、自由記述の回答によると、かなり勉強になったとのことでした。今後も継続していきたいと思います。 自分自身が成長できたかという問い（設問11）の回答はそれほど高くありませんが、教える方の立場からすると、成長の様子が大きいに見られたと思います。今後の教職過程での学習につなげていってほしいです。
教職実践演習（中・高）	清田 夏代	学生の評価については概ね納得している。学校現場の問題をより明確に伝えられるよう、今後一層工夫していきたい。
教育課程論	清田 夏代	学生評価の結果については概ね納得している。平均より評価の低いものもあるので、改善を図っていきたい。この授業は、教職課程科目改革の影響で配当学年等が変わるので、適切に対応していきたい。
教育課程論	菅沢 茂	本授業のねらいは、15回の授業の終了後、皆さんが教育課程の意義とは何かについて簡潔に答えられ、もし一校を任せられたとしたら自分はどんな学校をつくり、どんな生徒をつくるかを考えられることでした。分析結果を見ると、参加姿勢や理解度は概ね良好であり、本授業の目的は達していたといえます。毎回の授業で3分間スピーチをいれ、こちらが用意した課題についてグループ討論と発表を行いました。次第にメモを見ずに積極的に行うことができました。今後は分かりやすい板書と考え議論する授業展開となるようさらに工夫します。
教職実践演習（中・高）	菅沢 茂	参加姿勢や理解度は良好であり、参加者全員が演習資料の作成や発表に積極的ににかかり、授業の目的は十分に達成されたと思います。
教育方法・技術論	宮脇 郁	わかりやすい授業を心がけていますが、中程度の評価でしたので、これをもっと高めていきたいです（設問7、9）。また、どちらかというと受講生と教員のコミュニケーションより、受講生同士のコミュニケーションを増やすことを心がけていましたが、今後は受講生と教員の双方向性をもっと高めたいと思います（設問8）。 この授業の大きな特徴として、模擬授業を行うことが挙げられます。模擬授業の準備は大変だったと思いますが、自由記述の回答によると、かなり勉強になったとのことでした。今後も継続していきたいと思います。 自分自身が成長できたかという問い（設問11）の回答はそれほど高くありませんが、教える方の立場からすると、成長の様子が大きいに見られたと思います。今後の教職過程での学習につなげていってほしいです。
教職実践演習（栄養）	清田 夏代、白尾 美佳	学生評価の結果についてはおおむね納得している。今後も学校現場の最新の状況を反映できるように、授業研究をしていきたい。
教育制度（栄養）	清田 夏代	学生評価についてはおおむね納得している。平均より低い項目もあるため、改善をはかっていきたい。
教育課程論（栄養）	清田 夏代	学生評価の結果については概ね納得している。この授業は、教職課程科目改革の影響で配当学年等が変わるので、適切に対応していきたい。

[2019（後期）教職課程] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
道徳教育指導論（栄養）	山田 佳子	栄養教諭や栄養士を目指す人たちの講義で、特別活動や総合的な学習の時間などについても幅広く学習を行いました。が、学生の皆さんは、自分の進む将来を考え、まよめ模範授業で良い提案をしてくださいました。食育をどう進めていけばよいか、これからも考え続けてほしいと思います。
児童・生徒栄養教育論（2）	白尾 美佳	これからも児童生徒の実態がわかるよう触れ合うことができる機会を作っていきたいと思います。
教育原理（栄養）	菅沢 茂	参加姿勢や理解度はたいへん良好であり、この授業の目的はほぼ達成できたと考えます。グループ討論と発表の形式、3分間スピーチの時間区分の設定など、さらに改善していきたいと思います。配布資料が多かったので、簡素化と分かりやすさに心掛けます。
教育方法・技術論（栄養）	柏崎 秀子	授業の内容と方法の各項目がどれも平均以上の高い値となり、一定の成果がみられたものと思います。この授業では、教師側の視点で授業を捉えることを学ぶ趣旨であり、自由記述でも、授業を通して教師側の視点に立って物事を考えられるようになったことが書かれており、しっかりと趣旨を理解できたようで、手応えを感じます。今期は担当者が体調を崩し不便をかけてしまったため、今後は体調管理も心掛けようと思います。
教育相談	柏崎 秀子	どの項目もほぼ平均値あたりで、一定の成果がみられたものと思います。各自が調べて発表する活動を多く取り入れましたが、予習復習がしっかりできていて、自身の成長が実感できて、さらに専門的に学びたいとの値が高く、教職の専門性をよく理解して充実した学びができたことと嬉しく思います。自由記述でも、カウンセリングの仕方やどのようなことに気をつけて話を聞けばよいか、問題行動への対応の仕方などを詳しく学べてよかった、などと書かれており、修得したことが今後の学修に活かされていくことを願っています。
教育方法・技術論	柄本 健太郎	<p>本授業は、教職課程において「理論に基づいた授業の設計・実施・改善を、ICTを用いて実践できること」を目標に、学習指導案の作成、模範授業の実施、ICTの活用を具体的な課題としていました。</p> <p>(1) 教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等</p> <p>本授業では教育効果の向上のため、以下のような工夫や取り組みを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク：「同僚と話すように」という状況・目標を設定した上でペアワークを導入しました。導入により、他者の作成物を見る機会を得たり、他者と相互に評価し合う機会を得たりすることで、自分の制作物を客観的に見る力を得ることに加え、建設的な議論を行う力を得ることを狙いました。</li> <li>・大福帳の活用：15回分をA4で1枚にまとめ、毎回の書き込みに教員がコメントを返すとともに、匿名性に配慮した上で、必要に応じ内容を授業冒頭で全体共有しました。大福帳の導入により、授業の楽しさ・内容理解・教員との信頼関係の3点を向上させる効果を狙いました。</li> <li>・電子黒板の体験：1回分の授業の中で、電子黒板と通常の黒板の両方を同時に体験してもらいました。体験により、二種の黒板に少しでも慣れ、教員の特徴を活かした使い分けの力を促進させる効果を狙いました。</li> <li>・その他の工夫：模範授業の導入、学習指導案と授業の改善チェックシートの活用、タイマーでの時間管理</li> </ul> <p>(2) 学生の要望に対する対応（フィードバック）等</p> <p>本授業では、対面や大福帳から学生の要望を随時得ることで、即時もしくは次回授業までに対応しました。</p> <p>(3) 学生からの授業評価</p> <p>【みなさんへ】半期おつかれさまでした。皆さんのリフレクション・シートの記述から、おおむね授業に満足してもらえて、成長も実感してもらえたように感じました。授業がお役に立てれば何よりです。作成した学習指導案、模範授業の経験、IDの理論と、今後の実習等での学びを組み合わせ、今後ともがんばってください。</p>
教育課程論	菅沢 茂	本授業のねらいは、15回の授業の終了後、皆さんが教育課程の意義とは何かについて簡潔に答えられ、もし一校を任せられたとしたら自分はどんな学校をつくり、どんな生徒をつくるかを考えられることでした。分析結果を見ると、参加姿勢や理解度は皆さん大変良好で活気のある授業となり、本授業の目的は達していたと考えます。毎回の授業で3分間スピーチをいれ、こちらが用意した課題についてグループ討論と発表を行いました。次第に皆さん積極的に参加することができました。今後は板書と発問に工夫して、考え議論する授業展開となるようさらに工夫します。

[2019（後期）教職課程] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
介護支援基礎論	柏崎 秀子	どの項目もおおむね平均に近い値ではありませんでしたが、全体的に、もっと学生の理解の様子に合わせた授業が望まれていると感じました。自由記述では、多くの学生が来年度の体験に必要な知識や理解が得られたと書いていることから、扱う内容は学生にとって有意義であったことがわかり、手応えを感じました。今後は、しっかりと理解できるように、基礎事項はゆっくりと確認しながら進めたり、どれが重要事項かを明示したり、より分かりやすくなる工夫をしていきたいと思いました。
教職実践演習（中・高）	清田 夏代	学生の評価については概ね納得している。学校現場の問題をより明確に伝えられるよう、今後一層工夫していきたい。
教育課程論	清田 夏代	学生評価の結果については概ね納得している。この授業は、教職課程科目改革の影響で配当学年等が変わるので、適切に対応していきたい。
教職実践演習（中・高）	菅沢 茂	参加姿勢や理解度は良好であり、参加者全員が演習資料の作成や発表に積極的にかかわり、授業の目的は十分に達成されたと思います。
教育方法・技術論	宮脇 郁	わかりやすい授業を心がけていますが、中程度の評価でしたので、これをもっと高めていきたいです（設問7、9）。また、どちらかというと受講生と教員のコミュニケーションより、受講生同士のコミュニケーションを増やすことを心がけていましたが、今後は受講生と教員の双方向性をもっと高めたいと思います（設問8）。 この授業の大きな特徴として、模擬授業を行うことが挙げられます。模擬授業の準備は大変だったと思いますが、自由記述の回答によると、かなり勉強になったとのことでした。今後も継続していきたいと思います。 自分自身が成長できたかという問い（設問11）の回答はそれほど高くありませんが、教える方の立場からすると、成長の様子が大いに見られたと思います。今後の教職過程での学習につなげていってほしいです。